

年頭にあたつて

山

村

き

よ

まえがき

編集の方から一月号に何か所感をかけたことで二、三日頭をひねっている時に丁度十一月号を手にして三木安正先生の、「はき出させる教育」を拜見して、日頃私の頭を占領していたことがみんなはき出されたような喜びを感じて、くりかえし拜見いたしました。そして私も又、日頃考へていることをべんの走るままに、はき出させていたゞくことにしました。

年度中には四〇〇〇近くになるのではないか?ほんとうに嬉しいことです。それにも増して嬉しいことは、戦前には殆んど幼稚園のことを問題にされなかつた教育行政にたずさわる方々ことに文部省内でさえ、重要なポストに居られる方々の中に幼稚園のことを認識されていないで幼稚園関係者を悲しませていたものでした。が、最近では初等課の方々は勿論、それ以外の方々からも幼稚園のことを取りあげていただいたり、一般社会の方々や、同じ教育畑に席を同じくして居りながら幼稚園の存在をみとめて下さらなかつた小学校の先生方に、ようやく就学前教育の重要性をみとめていただいて「幼稚園の位置」がはつきり浮び上つたように思はれます。去年から、今年にかけてはラヂオや、新聞終上に幼稚園の問題が多く報ぜられてその度に幼稚園関係者は、喜んでみたり、又驚いたりしたものですが、義務教育でない幼稚園が制度の上では守られていな

よろこび

一一、三年の間に幼稚園の数がぐんぐんふえて、文部省の昨年度の調査によると国公私立あわせて二八〇〇園余りとか。きっと本

いのにモデルスクールの仲間入りをして文部省指定のモデル幼稚園が全国で八園も誕生したことや、はじめて二十八年度の国の予算の中に金額は僅かではあっても増設補助費として四五〇〇万円、モ

ルスクール施設補助費二〇〇万円など計上されたということは、何といつてもよろこばしいことでした。学制八十周年の祝典に参列できた喜び以上に嬉しいものがありました。おそらくここから道が開けて来年度からは幾分なりとも予算のともなうことがらに光明の見えること、思います。私が三十年来叫んできたことの道が、今ようやく開けたことに限りないよろこびを感じています。

憂

い

しかしこうして各方面の方々や、一般社会の人々にまで幼稚園教育が重要視されてきた時に、いつも批判的になるのは「現在生れつゝある幼稚園の姿」です。学者の方々や、教育関係の方々から「今日の幼稚園のあり方」についてするどい批判をうけたり、最近お目にかかるたびで、かつては幼稚園行政の重要なポストに居られた先生から「僕は幼児教育は好きだけれど、今の幼稚園はきらいだ」と伺ったとき、一時はやつきとなつて、どこに問題があるのか反ぱつしてみたいと思いましたが、静かに考えて見れば、私でさえやっぱり同じようなことを考へている一人だったことに気づいて、はつきりと位置づけられた幼稚園の正しい使命を考えたとき、いろいろの点で案じられることが次々と頭に浮んできました。幼稚園の良心的な運営、良心的な教育内容、教育の方法など、気になることばかりです。次々に増設されるバラックのような園舎に集められるこどもの手をひいてある

達、何の設備も施されていないがらんとした建物の中に収容される多くのこども達の毎日の生活内容を、のぞき見したり、保護者や、先生達の訴えをきいておどろくこの頃です。

何といつても一ぱん目につく音楽リズムの取扱いでは、三十年前と少しも変わっていない振りつけ遊戯を一生懸命伝授している幼稚園は幼児のための「舞踊コンクール出演」など……およそ幼児の楽しむ音楽生活とは、かけはなれた生活があちこちにのぞかれて悲しい現在です（詳しくは十二月号、幼児の音楽リズムについてを御参考下さい。）

絵画製作では相変わらず、「ぬりえ草門」の遊びで一日を終つたりごっこ遊びなど、八百屋さんや、おもちゃやさんにならぶ売品はみんな同じ形、同じ色のものばかりで、どこに幼児の創作的生活があるのか、「はき出させる教育」とはおよそ反対な指導のなされることに驚きます。こどもに創意がないではなくて、常に創作的な指導をされていない結果が「自分でつくり出すことをわづくうがつて」安易なぬりえ式の製作を喜んだりするのでしょうか？

今も昔も変らない土曜日のおみやげ、その他行事の前日には先生方が夜業をしてまで造つて贈るおみやげの、よし、あし、は別として「何もこどもの知らぬ間に用意ができてしまうこと」……がこのどもの生活のどこにプラスするでしょうか？

園外保育などにしても、今だに見かける幼稚園の遠足風景は保護者のために考へられているようなものだと思います。食べきれないような沢山の食料を用意して、ぞろぞろとこどもの手をひいてある

く行列は、おとなのかげにかくれて何も見えないことの遠足風景です。こうした中で自分の持物の、仕末や、お弁当の後仕末を子どもに一人でさせているお母さんがどの位あるでしょうか？きっと子どもの知らない間にきちんととかたずけられてしまうのではないでしょ？園外保育で一ぱんだいじな社会性を育てるこことや、観察させることの生活がおとなのじやまによってできないことを考えて特別に保護者の指導をされているところは別として、……前のような生活で子ども達は遠足のためにプラスする生活があるでしょうか？すべてに受身の生活がまっている幼稚園の中で「はき出させる教育」が営まれるでしょうか？案じられてならない幼稚園の前進です。

ある地方での質問に「先生この頃近くにできた幼稚園で、二学期になるとみんな字を教えるから、それを見る私の幼稚園の保護者も心配して教えてくれ教えてくれとせがむので保護者に何と返事をしたらよいでしょうか」と問われてこの良心的な若い先生に、いろいろと保護者に対する考え方を指導するのに骨がおれたと、東京に帰つてからある会合で話したところ「田舎ばかりではなくて、東京にだって沢山ありますよ」と教えられて二度びっくりしたことがあります。この他最近耳にしたことは、附属小学校に入学させるために毎日テスト、テストで追いまわされて可哀そらだと、その幼稚園の先生のなげき、又甚しいところでは昨年度附属小学校に一人も入学させることができなかつたと云う理由で幼稚園を退職させられたといふ年とつた先生のなげきや、「来年こそ三人は附属小学校に入学させてくれ」と園長先生からきつい注文をつけられているという新卒

の可愛い先生の訴えをきくにつけ、何のために幼稚園にきているのか、それらの幼稚園の先生や、こども達に同情しているこの頃です。こうしたことを考えると、三十年前の幼稚園のこどもの方ははるかに幸福のように思えてなりません。希望すればいつでも入園でき、きゅうくな机上プランにしばられることもなく一日をのんびりと遊び暮していた昔の幼稚園の方が、ある意味では情緒の安定しかに幸福のように思えてなりません。昔の幼稚園でも、こうして豊かな人間性を養い、自律心をもたせて、創意に富んだ生活指導をされていた幼稚園があちこちに見られていたことを想い出します。今の幼稚園でも、昔の幼稚園のように、すべてに受身の生活ができるように、どっちをむいても先生の手が親切に行き届き過ぎて心配はないでしょうか？これも又案じられてなりません。

無計画に増設される幼稚園の数の多いことが先生の不足を生じ、唯でも女であればまたに合うと思って採用された若い先生方から、思ひがけない質問をうけて返答にこまることがしばしばあります。そんな質問にも笑はないで親切に答えてあげたいと、思うと同時に、幼稚園の無計画な増設と、幼稚園教育の低下ということを悲しみます。一ヶ月に十五園平均は新設されていると、東京の私立幼稚園の実態、又保育料で自給自足を立前とするために、俸給のやすい新卒の先生を採用せねばならないある地方の公立幼稚園の現状……その中で日増しにするほど批判しようとなさる教育学者、心理学者の多くなられたこと……どこの幼稚園もみんな「日本の今の幼稚園」として批判される悲しみをもつてているのは私ばかりではないと

思います。

のぞみ

以上のように幼稚園の多難な時代をきりぬけるのにはどうしたらよいのか、多方面にわたって日夜頭をなやまして居られる幼児教育者が全国には数多いこと、存じます。どうしたら良心的な幼稚園の経営ができるか？ どう運営したら良心的な幼児教育ができるかと熱心に研究し合っている団体もあちこちにちらばつてゐると思ひます。

今こそこうしたことに関心をもつて熱心に研究し合っている人々

が、出そうではありませんか。

が、教育実践家も、経営者も、学者の方々もみんな手をとりあって

力を結集して、日本の幼稚園のためにこの多難な問題を一つ／＼解決して進んで行つてほしいと念願してやみません。私など古くから幼児教育にたずさわっている者の一人として痛切にその責任を感じます。

昔から幼稚園は、ぜいたくなものとして世間の人々からは特別視され、教育関係の方々からも毛ぎらいされて、「昔の幼稚園の姿」を一日も早く「就学前の正しい教育の姿」にきりかえたいものです。それは私共教育実践家にかけられた大きな責任だと思います。そして名実共に新しい姿の幼稚園があちこちに誕生するようにお互いが協力し合うことこそ必要なことだと思います。そのためにはあちこちにちらばつている団体が、それぞれとぢこもつていてないで、みんなが手をとりあって行かねばならないことだと存じます。しかし東京のように多くの団体をもつ地区としては實に勇気と、

幼年教育研究会

努力のいることと思いますが、今こそ「日本の幼稚園」のために考えねばならない時がきたように思います。そして心から日本のこともを想い、日本の幼稚園のことを考えていて下さる方が手をとりあって進んでいく時に、日頃何かと批判をしていて下さった教育関係者の方々に、心からの御援助がいただけたら私共幼児教育者はどんなに幸せなことでしよう。そうした團結の力がやがては國の力をもゆり動して、制度上にも財政的にも國の援助がいただけるよう、道がひらけたら日本の幼稚園はどんなに発展して行くことでしょう。うこうしたことを夢に終らせないで何とか実現させるように勇気をもつてください。

小学校の先生方から幼稚園を終えてきた者は「依頼心が強くて困る」とか「わがままでこまる」とか云われた場合、幼稚園の先生方はふみつけられたような気持と、一年なり二年なりを育ててきた母親のよくな愛情から、「ふんがい」するだけでなく、今現に自分達が育てて渡したことでもが小学校で「わがままな行為をして友達にめいわくをかけてはいらないだろうか」「學習の氣分をみだしてはいないだらうか」と静かに反省してみる必要があります。そして自分の育てた子どもに自信をもつて学校に渡せるように、家庭教育をも指導しようではありませんか。あまりにこどもの気持ちをくみすぎる幼稚園の先生方があるとすれば、小学校には割合にこどもの気持にはとんちやくなしに、学級としての成績あげたい先生も居られること、思いますので、その間には大きなひらきができる間に

はさまるこども達こそいい迷惑だと思います。ましてこどもの生活が幼稚園にばかりあるのではなく家庭生活に多くの難点をもつてゐることもは小学校入学と同時に、幼稚園での効果は消えて、もとの生活にもどることさえありますので、こんな点を充分に進学させた小学校の先生方と話し合いをする機会を常にもたねばならない筈です。しかも一年、二年の集団生活を経たものと、そうでない者とが同じ取扱いをうけているならば幼稚園修了者は、小学校の生活に対してもこれがをもつて入学しただけに、よけいに不満をもつたり、物足りなさを感じることだと思います。そしてトラブルを起している気持ちはけ口をあちこちとさがすにきまっています。しかし大勢一まとめにされたきゅうくつな生活の中ではきっと幼稚園からきた者が一ぱんさきに、学習をみだして困る、ということになり勝ちです。幼稚園の三学期の生活と、小学校一年一期の生活にはきっとだぶることのあるのは当然だと思いますので、そうした生活の重なりも、唱歌などのような教材が同じになる場合も考えられますのでそれらの指導の仕方に変化をつけていただくようには学校の先生方にお願いすることも必要だと思います。多くの小学校の先生方の中にはきっとこうした願いをききとどけて下さる方もあると信じます。小学校側にしてみれば一学級の二割か三割の幼稚園修了者のまじっていることに大変やうにくさを感じて居られると思いますが、反対に二割三割の幼稚園修了者のまじっていることを喜んでいて下さる先生もあるのです。今までにも多くの新しい教育法をとつて居られる先生方にお逢して、いろいろと昔の幼稚園や、今の幼稚園の質点をつかれてあべこべに幼稚園の先生方にいろいろと注文をつけたいと思いま

たことも度々ありました。又小学校低学年と幼稚園との懇談会には、いつも仲裁役をうけもたされてきた私は、幼稚園の先生方に、自己満足の気持ちをおさえて、気持ちよく研究会をもたれることを望むと同時に、自分のしていることに自信をもつて小学校の先生方に、幼稚園の教育内容が説明できるようになってほしいと思います。

最近各地方のあちこちにもたれる「幼年教育研究会」の盛んになつてきたことを喜ぶ一人です。今の小学校の生活にあわせるために幼稚園の教育内容を組み立てる必要はないと思ひますが、一応お互いのカリキュラムを検討し合つたり、小学校入門期の学習内容や、幼稚園の生活内容を両方の先生方が知り合つておくことはぜひやらればならない大事な仕事の一つだと思います。私共が苦心して育てて渡した子どもが小学校でどんな生活をしていくか、のぞいてみたり、せめて三学期の幼稚園の生活を小学校の先生にみていただいて、「やっぱり幼稚園教育をうけてきたものは教育がしやすい」と小学校の先生にも幼稚園の効果をみとめていたゞき度いし、小学校の先生から「幼稚園を終えてきてよかつたね」と口には出さないでだまつて頭をなでていたゞきたいと思うのはいけないことでしょうか？ こどもの成長発達の上に立つて良心的な幼稚園教育をうけて入学したものが小学校で「学習のじやまをしたり」「依頼心がつよくて世話がやける」などとは考えられません、今の新しい教育が、こどもの過去の生活を基礎として、こどもの生活経験をもとに指導計画が進められているならば、正しい幼稚園教育をうけてきてよかつたと、小学校の先生方も幼稚園教育の効果をみとめ、又こども達も樂しい学校生活でますます豊かな人間性を養はれて行くことと思いま

す。そのためには現在生れつある各地の幼年教育研究会には、いつも小学校、幼稚園の先生方が同数位づつ出席されてお互いに協力

し合って行つてほしいと思います。現在の状態はこうした会合の会員のうち二、三割が小学校の先生方で幼稚園の先生方が七割以上を

して割切れない感じで終つてしまつたことも度々ありました。幼年

教育という機関が、幼稚園と、小学校とをスムースにつなぐだけのことではなく、就学前のことも全体と小学校一、二年までのすべて

の教育機関として、家庭教育、社会教育、就学前教育、小学校低学年

年の教育を一本と考えてすべての方面にいろいろと研究がなされる

ように、現在生れつある各地の幼年教育研究会に大いに期待する

ものがあります。

唱歌「今日は遠足うれしいな、母さんいつてまいります……」と唄う歌声にも明るい希望が感じられます。

男の子と女の子二人つつ、仲よく手をつないで歩く姿もまたほほえましいものです。

「あっ、消防自動車だ」

「もうせん、僕んちの方が火事だった時きたよ」

こんなとき、話し出すのは男の子たちです。二郎君と貞雄君が一

生懸命話しているとき、善郎ちゃんが、

「あれ——変な雲だなあ——」といい出しました。そして急に

室の雲に気付いた善郎ちゃんの足はすすみません。前の友達との間があいてしまいました。

先生「先頭さん、ちょっとまつて頂戴、今、善郎ちゃんが雲をみつけたから」

みんな立ちどまつて空を見上げました。なるほど青空に白い雲が

はつきり見えます。しかも雲足早く次第に形が変つてゆきます。

先生「いつもお空がまつて白雲が見えないよ」

「いつもお空がまつて白雲が見えないわね」

先生「そら、そら、善郎ちゃんはよく空を見るわね、みなさんも、

ときどき空を見てごらんなさい、おもしろいわよ、さあ先頭さん歩き出して頂戴」

先生「もう少し行くと交叉点があるから気をつけてね、信号をよく見て渡りましょうね」

お話をながら元気に歩いていると交叉点のところにきてしまったので、信号のかわるのを見ながら、注意をしたり、話し合いながら

園外保育の日誌より

五月のさわやかな空気を胸いっぱいに感じながら、子供達の足どりもかるくはずみます。

五月のさわやかな空気を胸いっぱいに感じながら、子供達の足どりもかるくはずみます。

先生「四列に並んで渡りましょうね、わき見をしないでね」

先生「赤だったら、どうするの？」

一同「止っているの」

「青だったら」

「いってもいいの」

一郎「先生、だいだいのときは注意ってことだね」

等々

話しているうちに一度「青」になつたのでもう一回変るまでに用

意しながら（四列になるように）

先生「先頭は、春雄ちゃんと三郎ちゃんと……あき子ちゃんと……

それからひろ子ちゃんね、向側のたばこやさんの前に待つてい

て頂戴ね、一ぱんあとに先生が行くまで動かないで並んで待つ

ててね」

四人「はい」

びっくりするような四人の大きな声に道行くおとな達の顔をほこ

ろばせていくときに、「青」になつたので、

先生「さあ、早く渡りましよう、わき見をしないでね」

こんなに交通のはげしいところでも（新橋田村交差点）規則を

守れば安全に大勢の子供達が行動できるものだと嬉しく思いながら

先生は、一ぱん後について、早足で渡りました。

何だか幼稚園の子供のために信号がゆっくり変わったようにも思え

たのは「まちがい」で子供ながらに緊張してわき見もせずに大いそ

ぎで渡った繊細な動作に私はいつも幼稚園内ではみられない嬉しい

情景を見出しても、園外保育の効果をはっきりとみとめることができました。

先生「先頭さんも、みなさんも、ずいぶんじょうずに渡れましたね」

ほら、よそのおぢさまや、おばさまが感心して見ていらっしゃ

るわ」

子供達がなるほどと思うように、五、六人のおとな達がにこにこ

しながらこのようすを見ていて下さいました。みんなの顔も優越感

で一ぱいで。二度目の交叉点も無事に通つて日比谷公園の入口が

見えるところまできました。先頭の者はいそぎ足ではしゃいでいま

す。そのうち聞える唄声は、

「はっぱのトンネル、はっぱのトンネル」と誰かが唄い出したの

に合せてみんなが「はっぱのトンネル、はっぱのトンネル」とメロ

ディーは実際にかんたんなものではあるけれど、ほんとに幼児達の今の気持ちを歌つた

すばらしい創作です。プラタナスのしげっ

ている並木路はほんとに涼しくて気持ちがよかつたのでしょうか。こ

とに一度も交叉点を渡つたときの緊張から解放されて、しかも二十

米近くもつづくプラタナスの並木路を、目的地を目の前にして歩く

気持はおとなでも何とか口ずさみたいような気持ちであったのに：

：一步さきに子供の口から発せられたこの歌は立派な作品で、みん

なが感じをこめて歌いました。

一同「はっぱのトンネル」

先生「すずしいトンネル」と私も後をつけて同じメロディーで歌つ

てやりました。それからしばらくはみんなが、

「ぱっぱのトンネル、すずしいトンネル」と楽しく歌いながら公

園に入つて行きました。日比谷公園に入つてからは子供達のよろこ

ぶものばかりです。中でも遊園地の大きなぶらんこ、すべり台、みんな「魅力」のあるものばかりですから、喜びはしゃいで「けが」

のないようには私の気持ちを緊張してきました。一つ一つをみんなが

楽しめるように、少しづつ順々と遊び歩いて、四、五十分間遊んで

から楽しいお弁当に誘いました。子供達ばかりで遊んでも危険のな

いような場所を選んでゆっくりとお弁当の用意にとりかかりまし

た。手洗いの場所が遠かったので、もってきただ水筒の水で手先だけ

を洗うように指導してから（私が用意した大きな水筒から水を出し

て洗つてみせました）水筒のない者に少しづつ水を掛けてやりました。

ゆっくりと、いつもよりおいしいお弁当を食べたあとでおやつも一緒に食べさせました。（キャンデー二個、クリームサンド一個、

小丸せんべい三枚位の少いおやつを入れるように注意してありまし

たので）

先生「みんなのお弁当がすむまで遠くに遊びにゆかないようにしま

しょうね」

これだけ注意してもがまんできない男児達のために特に、

先生「お友達がすんだら一緒に遊びに行きましょうね。おやつをた

べながらあるかないことでしたね」

お弁当を食べている私の近くで、ありんばさがし、松葉拾いなど

の危険でない遊びに誘うことも成功したのは、そばにぶらんこ

や、すべり台が見えなかつたからでしょう。

十二時半にはおかえりの仕度にかかりました、朝は八時頃から、「遠足だ、遠足だ」と喜びはしゃいでいた子供達がつかれないよう

に、帰園の時間を三、四十分とつてゆっくりと幼稚園に帰えりまし

た。そして次のようなことを注意してかえしました。

1、家に帰つたら手を洗つてうがいをする。

2、リュックサックの中味を調べてもらら。

3、楽しかったことを話しながら必ず身体を横にすること、屋寝

をする。（昭和二十四年五月記す）

これはかつて私が西桜幼稚園奉職中に記録しておいたもので二年保育、年長児受持人數三五名、助手一名のときで、できるだけ近い場所に度々出かけるように計画したことが今でもつづいて行われて

いるようではんとに嬉しいことです。

X X X

尙このような記録を過去一年間に渡つて整理し、学び得たことを四百余りの原稿用紙にまとめて、恩師武田一郎先生（お茶の水大学教授、同附屬小学校長）心理学者大内義男先生の御検閲、御加筆をいただきて出来上った「幼稚園の教師と母の書」はフレーベル館でも取扱つていただくことになりました、増設にともなつてかり出された若い高校卒の幼稚園の先生方、両親教育に苦心されて居られる先生方の御参考になれば幸です。（文京区立第一幼稚園長）

幼稚園の教師と母の書
B6判・二三〇頁
価二〇円
お茶の水女子大学教授
同附属小学校校長 武田一郎先生
第一幼稚園長 東京都文京区立
山村きよ先生 共著

三友書房発行